

風にゆれる木漏れ日にも、うららかな春の光を感じる季節となりました。

本日卒業式・修了式を迎えられた学生の皆さん、まことにめでとうございます。また、ご父母・保護者の皆様におかれましても、さぞや安堵され、お慶びのことと拝察いたします。こころよりお祝い申し上げる次第です。

ここ武道館において、卒業式・修了式を迎え、学士・修士・博士の称号を授与されたみなさんは、経済学部 773 名、法学部 893 名、経営学部 546 名、商学部 774 名、文学部 694 名、ネットワーク情報学部 249 名、人間科学部 202 名の合計 4131 名です。

このうち、修士課程を修了された諸君は 82 名、博士後期課程を修了された諸君は 3 名、法科大学院を修了された諸君は 19 名です。これで、本学の卒業生は累計で 255643 名となります（石巻・北短を加えますと 274353 名）。すなわち、皆さんには、およそ 270000 余名の先輩が存在し、皆さんは今日からその戦列に加わったことになります。

本学に対する社会的評価は、いわゆる偏差値などではなく、卒業生の社会における活躍に依拠しています。これからは、皆さんおひとりおひとりの活躍が、将来の専修大学の評価を決定するといっても過言ではありません。

また、卒業される諸君のうち女子学生は 1541 名で、卒業生全体の 37.3% にあたります。「均衡のとれた持続発展可能な社会」を形成し維持するためにも、人文社会科学を学び、その素養を身につけた女性の活躍が求められています。さまざまな困難がともなうかもしれませんが奮闘をこころから祈念しています。

さらに卒業される方々の中には、留学生 52 名が含まれています。言葉はもちろんのこと、文化や制度、習慣や常識など、様々な面で大きく異なる環境下で修学は大変な困難がともなったと思います。それを乗り越えて本日を迎えられたことに対して、心より敬意を表したいと思いますとともに、今、世界は驚異的なスピードでグローバル化が進行しています。どうか日本と母国のみならず「世界の架け橋」となってくださることを強く期待しています。

専修大学は 1880（明治 13）年、アメリカで学んだ、相馬永胤。目加田種太郎、田尻稻次郎、駒井重格らによって創立され、来る 2020 年東京オリンピックの年に創立 140 周年をむかえます。専修大学は 2001 年以降、専修大学 21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、カリキュラム改革や教育関連施設の整備、学生の質保証などに取り組んでまいりました。また 140 周年を期に都心の神田靖国通り沿いに新キャンパスを展開し、国際系新学部の創設、商

学部に移設の他、生田キャンパスでも個性ある新学科設立の構想がまとめられつつあります。

しかしここで忘れてならないのは大学のこうした学びやキャンパス、カリキュラムなどは、必要不可欠なものではありますが、みなさんの人生全体の学びから見れば、あくまでも土台部分に過ぎないということです。

高浜虚子に

「一を知って 二を知らぬなり 卒業す」

という俳句があります。すなわち虚子は、卒業はあくまでも社会への窓口に過ぎず、大学における学びによって、問題のすべてが解決できる訳ではないということを暗に言おうとしたものと思われます。肝心なのは専修大学21世紀ビジョンにも謳われているごとく「深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」が身についたか否かです。しかし心配はいりません。皆さんは授業やゼミナール、さまざまなプロジェクトやインターンシップ、そしてカレッジスポーツなどの機会を通じて十分にその能力を養ってこられたものと確信しています。

あとは勇気をもって飛びたてるだけです。これからの卒業生・修了生諸君の奮闘に期待し、第十六代学長の式辞とします。